

創業138年！

「近江屋洋菓子店」初の公式ブック 7/29発売 レトロかわいい♡包装紙柄のスマホポーチが付録

明治17年の創業以来、東京・神田でおいしい洋菓子を提供する老舗「近江屋洋菓子店」の付録つきBOOKを、2022年7月29日（金）に発売します。

特別付録は、近江屋洋菓子店のレトロかわいい包装紙柄のスマホポーチ！“夢のあるかわいい世界”が描かれたキュートな包装紙。お菓子と同様、60年以上もの長きにわたり愛されるそのデザインをスマホポーチにあしらいました。背面ポケットがついて使いやすく、人気商品の苺サンドショート柄のチャーム。お買い物や旅行、ちょっとそこまでのお出かけのお供など、さまざまなシーンで活用できます。

誌面では、近江屋洋菓子店の大ファンである佐藤菜里さん、ロバート秋山竜次さんのインタビューのほか、「人気の定番ケーキベスト7」「パッケージ誕生ヒストリー」「工場潜入！ 苺サンドショートの作り方」など、近江屋洋菓子店の魅力をたっぷりお届けします。

『近江屋洋菓子店 レトロかわいいスマホポーチBOOK』 発売日：2022年7月29日 / 価格：2365円(税込)

お買い物や旅行など、さまざまなシーンで活躍するスマホポーチ♪



▼内側は鮮やかなブルー



▼背面にはポケット & ロゴ入り



▼飛び出し防止のリボンループ&ボタン付き



▼取り外せるチャームには苺サンドショートとロゴを刻印



前面にあしらわれた包装紙のイラストがレトロかわいい♡



サイズ（約）：高さ18×幅12.5cm ストラップの長さ120cm（最長）

誌面では近江屋洋菓子店おなじみのパッケージ誕生秘話も！

60年以上愛される包装紙のイラストを手掛けたのは、現在もイラストレーターとして活躍する室屋郁子さん。パッケージを初めてデザインしたのは室屋さんが美大生の時でした。

本誌掲載のデザイン誕生秘話を読めば、ますますイラストに愛着が湧いてくるはず！



創業は明治17年！ 東京・神田で愛され続ける「近江屋洋菓子店」とは？

1884年（明治17年）に東京・本郷にて創業し、現在は、東京・神田に店舗と工場を構えています。“リーズナブルだけどチープでないものを”というコンセプトのもと、老若男女が365日、安心しておいしく食べられるものを目指し、最高級の方法を使って心をこめて作り続けています。開放的で高級感を醸すレトロモダンなお店には、オープン前から並ぶ方もいるほど、知る人ぞ知る名店です。



最高級の方法を使用した“リーズナブルだけどチープでない”スイーツ

お店に並ぶのは、定番のケーキからパン、アイスクリームなど、30種類以上。芳醇なバターの香りとともにりんごとパイの“シャキッサクッ”を堪能できる「アップルパイ」、カットしていないイチゴがまるごと入った「苺サンドショート」は不動の看板メニュー。また、厳選された果物のみを瓶詰めした「フルーツポンチ」も必ず喜ばれる手土産として大人気です。



アップルパイ



苺サンドショート



フルーツポンチ

ファン必見！「近江屋洋菓子店」のトリビアを掲載

誌面では、「近江屋洋菓子店」の“実は〇〇”ネタを集めて掲載しています。なかには伝説的な数字をたたき出したアノ話も……！ここでは、一部をご紹介します。

★イラストの登場人物には名前がついている！



★夏の風物詩「もも」の1日の最高販売数は800個！



種をくり抜いた丸ごとの桃の中にカスタードクリームを詰めた、その名も「もも」。1日の最高販売数は、驚愕の800個！この時期は、お客様からの「まだありますか？」の電話が鳴りっぱなしだそう。

★販売スタッフの制服はワンピース+エプロン！



販売スタッフの制服は、シンボルカラーのブルーのワンピースに白エプロンという、清潔感と気品が漂っています。ちなみに、勤続50年というベテランの方もいらっしゃいます！